

「ISOE 活動の紹介」

原子力安全基盤機構 (JNES, 第7代 ISOE 議長) 水町 渉 氏

ISOE は 1992 年 1 月に OECD/NEA の CRPPH の下で正式に発足し、日本は同年 4 月より参加している。OECD/NEA 以外のメンバーも参加可能にするため、1997 年 10 月から IAEA が共同事務局として参加することとなった。2007 年 12 月現在、29 ヶ国から 71 の電気事業者、25 ヶ国の規制当局が参加している。ISOE の地域技術センターは、IAEA、欧州、北米及びアジアの 4 箇所である。

ISOE データベースには 480 基の原子炉（運転中 403 基、停止・廃止 77 基）のデータが収納されている。台湾の 6 基のデータが欠落しているが (ISOE のメンバーではないので)、アジア技術センターでは独自に台湾からデータを手入してアジア技術センターのホームページ上に公開している。アルゼンチン及びインドについてもデータ公表を交渉中である。

原子炉運転期間は米国と韓国は長期化へシフトしている。フィンランドの運転期間は 1 年と決めているが停止期間は極めて短い。日本は運転期間が 1 年で停止期間が長いのが特徴であったが、浜岡の 24 ヶ月運転に NISA の許可が出ている。

ISOE アジア地区シンポジウムはこれまで下記において開催され、今回は第 5 回目である。

2005 年 御前崎、2006 年 越後湯沢、2007 年 ソウル、2008 年 敦賀 (国際)、
2009 年 青森

被ばく低減は安全と共に原子力発電における最重要事項である。そのために ISOE のネットワークを活用し、コミュニケーションの促進を図り、被ばく低減技術と経験を共有することが重要である。

アメリカの新規原子力発電所の計画 (2009年2月)

